

片山亜紀さん



かたやまあき
片山亜紀 ネット販売対応

📍三原市本郷町善入寺
<https://www.akikatayama.com>
※問合せはホームページへ

手に取って確かめたいくなる質感

柔らかな輪郭とナチュラルな色合い、年輪のように整った筋目。くり抜きの木工作品にも通じる造形美の陶器を創り出すのは、三原市の陶芸家、片山亜紀さんだ。板状の粘土「たたら」を幾重にも重ね、一つの塊を作った後にくり抜いていくという斬新な手法で、茶器や酒器のほか、日々の暮らしに使える皿、カップなども創作している。

三原市で陶芸家の家に生まれ、父の仕事をする姿からものづくりの楽しさを知った。京都市立芸術大に進み陶磁器を専攻。卒業後も京都で創作活動を続けた。自然豊かな環境に生まれ育ったこともあり、自然の美や質感を大切にしていたことから、いつしか粘土を素材としての「塊」にして削り出すという技法に行き着いた。さまざまな作品を生み出してきたが「他にもできることはないか」と、常に可能性を追求している。

2018年に三原市に帰郷。「お気に入りの器をそばに置いて、心地よい時間を過ごせてもらえたら」と作陶を続けている。



磁器製の茶杓。長年暮らした京都に想いを込めて。積層削り貫手(せきそうくりぬきて)茶杓「かもかわつらかわ」/7万7000円(税込)

花を生けなくても、部屋の空気が整う存在。色層粉引(しきそうこひき)花器/4万9500円(税込)



手前の乾燥中の器は、この後表面を整えてから3度の本焼きをして完成

物心ついた時からものづくりは身近なものだったという。自宅離れの二室を工房に。右奥が窯場



MIHARA

くり抜き、削り出す

花卉の形をしたぐい呑。小さな器としても◎。積層削り貫手(せきそうくりぬきて)華盃/1万6500円(税込)



安田あすかさん

MIHARA

ふだん使いの中に美を 民族紋様ベースの器



丸みのあるほっそりとしたシルエットが愛らしいマグカップ。紋様の黒土が釉薬のグレーと好相性。マグカップ/3000円(税込)

安田さんのテーマカラーともいうべき瑠璃色のソパチョコ。紋様は口ウ抜きという技法で描かれている。ソパチョコ/2500円(税込)



すっきりとしたラインとナチュラルな色合いは、コーヒーはもちろん、紅茶、日本茶でも使いたくなる。マグカップ/3000円(税込)

さりげなく、素朴な美しさを求めて

三原市生まれの安田あすかさんは、ミュージシャンを目指して2001年に渡米。ロサンゼルスで友人宅で目にした陶器製のバターケースが、彼女の人生を変えた。昔から器が好きだったため、「陶芸をやってみよう」と一瞬で決意。友人の通っていた大学の陶芸科に入学した。09年に帰国。修業しようと思って訪ねた陶芸家から、「基本があるなら独立したほうがいい。米国で得た個性を大切に」と言われ、故郷の三原に戻り工房を構えた。

マグカップやソパチョコなどに施された幾何学的な紋様。ネイティブアメリカンやアイヌ、アボリジニなど世界各地の民族に共通するパターンを描くのが安田さんの作風だ。追求するのは「使いやすさの中に素朴な美しさ」がある作品。日常にさりげなく共存している人と器が、暮らしをほんの少し豊かにする要素になればいいと思っている。

おいしいコーヒーを味わう時間に、そっと寄り添えるようなマグカップを作りたいと、今日もろくに向かう。

とうこうぼう ポレ ポレ
陶工房 Pole Pole 電話注文対応

☎0848-51-7864
📍三原市須波西1-5-25
🕒火曜～土曜の10:00～16:00 ※日曜は予約のみ対応
🌙月曜
<https://www.iichi.com/shop/polepole>
※取り寄せは電話注文にて



海を望む工房兼ギャラリーは、安田さんが暮い、最も影響を受けたという叔母の設計をベースに建築